

鈴木 舞 & 川口成彦

モーツァルト! ヴァイオリンソナタ 全曲演奏会

モーツァルト
25歳の決心と
ウィーンでの新たな旅立ち

第2回 プログラム

『1781年 vol.1』

《羊飼いの娘セリメース》による12の変奏曲ト長調 K.359

アレグロ 変ロ長調 K.372

「ああ、ママに言うわ」による変奏曲(キラキラ星変奏曲) K.265 (ピアノソロ)

ヴァイオリンソナタ 第32番 ヘ長調 K.376

ヴァイオリンソナタ 第33番 ヘ長調 K.377

*プログラム等は、やむを得ない事情により、変更になる場合がございます。

123
Mitake Sayaka Salon (vol.88)

全曲プロジェクト第4弾

©Yukiko Shibuya

2021年 7月28日(水)

18:30 開場/19:00 開演

【入場料】

会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)



<https://goo.gl/8rQE9n>

Photo D©Juan José Molero Ramos

モーツァルト 25歳の決心とウィーンでの新たなる旅立ち——

鈴木 舞&川口成彦

モーツァルト・ヴァイオリンソナタ全曲演奏会

2021年 **7月28日** (水) 18:30 開場/19:00 開演

【入場料】

会員 4,500円 (座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円 (全席自由席)

鈴木舞&川口成彦による、モーツァルト・ヴァイオリンソナタ全曲演奏がついに発動!! 想像を超え、愛に満ち溢れたモーツァルトの音楽の旅へ——

【123シリーズ・全曲プロジェクト第4弾】

鈴木舞&川口成彦によるモーツァルト ヴァイオリンソナタ全曲演奏、第2回目! 鮮烈なスタートを切った第1回目では、モーツァルトの音楽の不思議な魅力を圧倒的に感ぜずにはいられませんでした。モーツァルトの音楽は、どんな曲であっても、常に太陽のようにわたしたちを照らししてくれます。

"全曲"演奏会だからといって気を張ることはなく、聴けば聴くほど体が軽くなり、浄化されていくのがモーツァルトです。

カール・バルトという神学者は、「天国では、神様たちはモーツァルトの音楽ばかりを聴いている」といっています。

モーツァルト ヴァイオリンソナタ全曲演奏会の第2回目では、「1781年」当時、25歳だった天才モーツァルトが生み出した傑作たちを中心に、ウィーンでの新たなる旅立ちを描きます。

どこまでも美しく、純度の高い音楽を世に生み出した天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)。その奇跡ともいえるモーツァルトの音楽の秘密に、鈴木舞、川口成彦という二人の才能が挑みます!!

求道的な姿勢で音楽の本質を追究し、研ぎ澄まされた感性から生まれるインスピレーションをニコロ・アマティによって紡ぎ出す鈴木舞——。

ショパン国際ピアノ楽器コンクールで第2位を受賞し、新進気鋭の古楽器奏者として一躍、注目を浴びている川口成彦——。

今、奇跡とも言える二人の奏者のコラボレーションに、ときめきが止まりません。モーツァルトが駆け抜けた35年という短い生涯にも、たびたび、立ち止まり、振り返ることがあったろう。そして、さらに駆け抜けていく、それがモーツァルトの生涯でした。

モーツァルトの魂の「真昼の真只中」に書き遺された楽譜や言葉は、時代を超え、現代に生きる私たちの生命・生活・生涯のさまざまな場面で、真実を垣間見せてくれています。

さあ、計り知れない慈愛に満ち溢れたモーツァルトの音楽の深みとかげりない広がり、共に旅立ちましょう。(美竹清花さろん)

123
Mitake Sayaka Salon (vol.88)
全曲プロジェクト第4弾



鈴木舞 (SUZUKI Mai) Violin

東京藝術大学附属高校、同大学を卒業し、ローザンヌ、ザルツブルグ、ミュンヘンでディプロマ、国家演奏家資格を取得。在学中より国内外でリサイタルやコンサートに出演し、これまでに小林研一郎、円光寺雅彦、飯森範親、ニコラス・ミルトン、ヨルマ・バスラ、イヴァン・レプシッチらの指揮で、読売日響、東響、日本フィル、スイス・ローザンヌ室内管、フィンランド・クオピオ響、チェコ・モラヴィアフィル、ドイツ・ホーフ響、クロアチア放送響、ザグレブ・ソリスト等と共演。

2007年チャイコフスキー国際コンクール(ロシア) 最年少セミファイナリスト、2011年アンリ・マルター国際コンクール(ドイツ) ファイナリスト、2013年ヴァーツラフ・フムル国際ヴァイオリンコンクール(クロアチア) で優勝、オーケストラ賞、オルフェウス室内楽コンクール(スイス) 優勝、2016年スピヴァコフ国際ヴァイオリンコンクール(ロシア) 第2位、2018年コブプミュージックアワード室内楽コンクール(イタリア) 第2位。

2012年度チャネル・ビグマリオン・デイズ・アーティスト。東京交響楽団と録音したベートーヴェン・ヴァイオリン協奏曲〜第3楽章、マスネ・タイスの瞑想曲が日経ミュージックセレクションCD「モーニング・イン・クラシック」に収録された。2017年にキングレコードよりデビューアルバム「Mai favorite」をリリース、2020年「ルドン、ロードレック展」(三菱一号館美術館)のオーディオガイド、並びに「タイアップCD」に演奏が使用された。使用楽器は1683年製のニコロ・アマティ。



川口成彦 (KAWAGUCHI Naruhiko) Piano

1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ピアノ楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位、第1回ローマ・フォルテピアノ国際コンクール優勝、フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワルシャワ)をはじめ欧州の音楽祭にも出演を重ねる。協奏曲では18世紀オーケストラ、[oh! Orkiestra Historyczna]などと共演。2018年にはロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団のメンバーと共に室内楽形式によるピアノ協奏曲のリサイタルをオランダにて開催した。またモダンピアノでは2016年にアメリカにて世界的オーボエ奏者ニコラス・ダニエルと共にブランクの「オーボエ、バソーンとピアノのための三重奏曲」の最終稿の世界初演を行っている。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガールの各氏に師事。欧州のレーベルからリリースされたCDに加え、2018年には自主レーベル MUSIS を立ち上げ、第一弾としてバルトークの「2台のピアノと打楽器のためのソナタ」をアナログレコードでリリースする。またスペイン音楽をこよなく愛し、2019年にCD「ゴヤの生きたスペインより」を発表する(レコード芸術/朝日新聞特選盤)。

2020年にはACOUSTIC REVIVEより「ショパン夜想曲&小品集」を発表。第46回日本ショパン協会賞受賞。

モーツァルト ソナタ全曲演奏会 (2021年~2023年)

- 第1回 「バリ・ソナタ集」 2021年1月13日(水)
- 第2回 「1781年 vol.1」 2021年7月28日(水)
- 第3回 「1781年 vol.2」 2022年1月15日(土)
- 第4回 「さらなる深みへ vol.1」 2022年7月16日(土)
- 第5回 「さらなる深みへ vol.2」 2023年1月7日(土)



大ホールプラチナ席をしのぐ
“美竹清花さろんという楽器”の中で
味わう一期一会
世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、
演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。 クラシック音楽サロン、 宮益坂、 渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 I L A (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409)0188

